

教育セミナー

術前化学療法後の 標準的薬物治療アップデート

名古屋市立大学 臨床研究戦略部

能澤 一樹

Case 1

Case 1

42歳女性、閉経前

腫瘍径 56mm, リンパ節転移2個

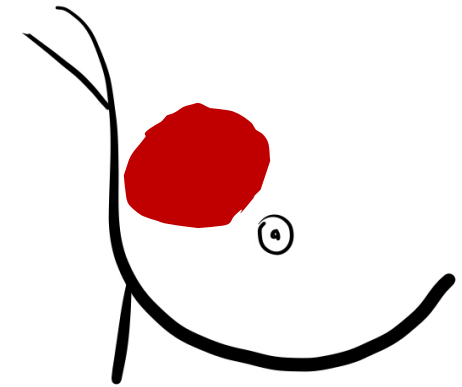
cT3N1M0, 浸潤性乳管癌

IHC: ER(8), PgR(8), HER2(0)

HG3, Ki67=30%, ECOG PS0

乳房温存希望あり（現時点で温存不可）

この症例に、術前化学療法しますか？
その際の注意点を挙げてください。



Case 1の続き

42歳女性、閉経前

cT3N1M0, 浸潤性乳管癌

ER(8), PgR(8), HER2(0)

HG3, Ki67=30%, ECOG PS0

乳房温存希望あり。

術前化学療法として、AC→DTX

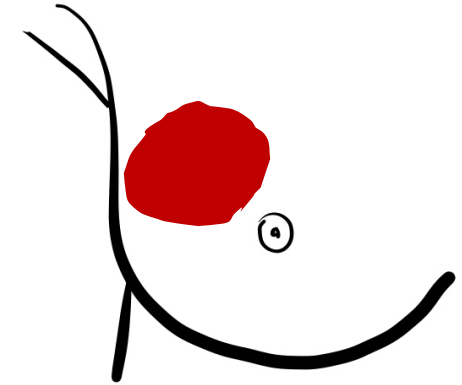
乳房部分切除術＋腋窩リンパ節郭清術の施行

ypT1N1M0

ER(8), PgR(8), HER2(0)

gBRCA negative

術後の薬物治療は？



Case 2

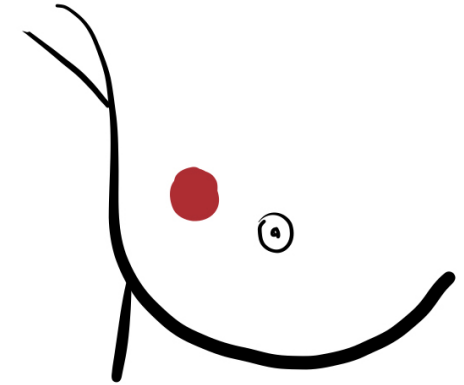
Case2

56歳女性、閉経後

cT2N1M0, 浸潤性乳管癌

HG3, ER(0), PgR(0), HER2(0)

ECOG PS0



この症例の治療方針は？

Case2の続き

56歳女性、閉経後

cT2N1M0, 浸潤性乳管癌

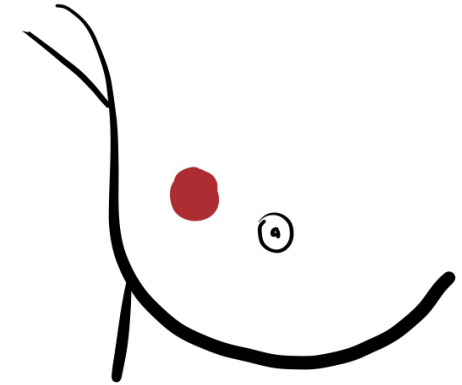
HG3, ER(0), PgR(0), HER2(0)

術前化学療法として、CBDCA+PTX+ペムブロリズマブ → EC+ペムブロリズマブを実施

cPRの判定

乳房全切除術+腋窩リンパ節郭清術

pCR（病理学的完全奏効）を認めた



この症例の治療方針は？

Non pCRであった場合は？

Case 3

Case3

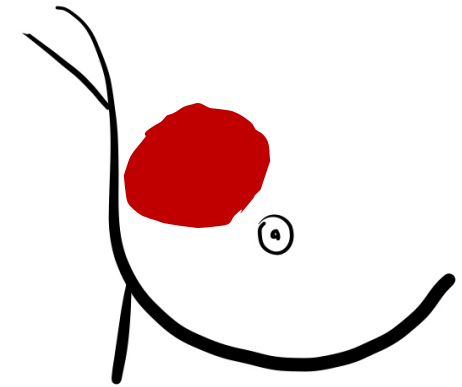
56歳女性: cT3N0M0, 浸潤性乳管癌

HG3, ER(0), PgR(0), HER2(3+)

NACとしてAC→ドセタキセル+トラスツズマブ+ペルツズマブを施行

病理結果では、残存病変ありypT1N0M0

non-pCRの診断



術後薬物療法は何を提案しますか？
また、pCRであった場合の薬物療法は？